

玉川重機



『飛ぶ教室』はクリスマス前で浮き足立つドイツのギムナジウムという寄宿学校が舞台のお話です

主人公格の5人組



多感な少年時代——この頃に人からもらった心や勇気や優しさは一生の宝物になると思います

『飛ぶ教室』には、その事を知っているたくさんの大人が出てきます

生徒が尊敬し憧れる大人の代表として正義さんと呼ばれるヨーハン・ベク先生と禁煙さんがいます



正義さんは、生徒達に権限は広い心で使う事や人への信頼の事などを教え、禁煙さんは生徒達にこう言います

「わたしたちは、少年時代を記憶の中にいきいきとどめておいて、それがこころの宝だ」「子どものころのことを忘れないでほしい。きみたちはまだ子どもだから、いまそんなことを言われても、よけいなことのように聞こえるかもしれない。でも、これは決してよいいなことではないのだ」



ケストナーが『飛ぶ教室』を書いたのは一九三三年ナチスが台頭した年ですケストナーはナチから焚書や執筆禁止を受けてもめげずにドイツに残り書き続けました勇気を子供にそして大人に示しました



ケストナーは「まえがき」その「二」でこう言っています

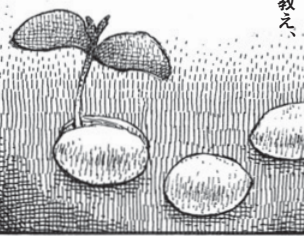


「かしこさをともなわない勇気は乱暴でしかない、勇気をともしなれないかしこさは屁のようなものなんだよ！」  
エーリヒ・ケストナー <1899 — 1974>  
代表作 エーミールと探偵たち 点子ちゃんとアントン ぶたりの ロッテ 他多数



最近、この国の空がどす黒くなっている気がしてなりません

大人が子供に勇気とかしこさを教え、その子供が大人になって、また子供に大切な事を教える 「希望の種」をまき続けるそれが おだやかな空を—— 平和を作るのだと思います



笑顔のあるクリスマスであってほしいです

速報！ 『草子ブックガイド』単行本第2巻が2月22日（金）に発売決定！ 『飛ぶ教室』編を収録！ さらなる情報は『草子ブックガイド』公式ツイッター (@sonobookguide) をチェック！